

ニシン稚仔魚の発育過程－生化学的手法を用いた発育の推定

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2025-04-24
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 福田, 雅明
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014330

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



ニシン稚仔魚の発育過程 —生化学的手法を用いた発育の推定—

福田雅明

ニシンのふ化直後から体長約 60 mm までの稚仔魚について、生化学的手法を用いた体成分の変化を検討し、これと形態変化を対比させ、既往の知見を含めて総合的に発育過程を推定した。蛋白質量と核酸量の変化からは、卵黄吸収期と変態期は細胞分裂の活発な時期と判断され、後期仔魚期の前半と稚魚期は細胞の大きさが増加する時期と推定された。グリコーゲン量と脂質量は稚魚期以後に急速な蓄積がみられ、糖代謝にかかわる一部の酵素活性の変化と合わせて、変態期を境にして代謝系に変化の生じることが推定された。

栽培技研, 17(1), 69-80 (1988)